

交渉速報(要旨) 申4号「冬期の取り組みに対する申し入れ」①

1. 新潟支社における「冬期の取り組み」についての提案及び社員周知は、可能な限り細部にわたり行うこと。

組→この提案資料の内容で現場は遅滞なく準備ができるか、昨年と同等の詳細さが必要ではないか。組合にも現場にも疑問が出ている

会→必要なものを提示している

組→労働組合への提案は要員のみか

会→取り組むメニューを含めて提案している

組→赤字下であっても安全・サービスは低下させないという認識で良いか

会→良い

2. 輸送指令の要員体制、冬期設備の使用開始等の冬期体制を12月1日からとすること。

組→12.15以前に発生した雪害に対応する際に現場～指令間でトラブルが発生している。課題としてどうか。

会→頻度の問題として12.1～12.15は件数が少ない。発生した際は応援体制で対応する。

組→ホーム除雪はどうか

会→巡回除雪やテンポラリーとの契約期間によるが、契約以前の場合は管理駅や支社でお客さまの動線を確認する。

組→消雪設備等の使用開始は12.1を目指して準備しているが、車両はどうか

会→12.15を目指して運用間合いを活用して準備を進める

3. 雪害に伴う計画運休等のプレス発表及び全系統への現場周知は速やかに行うこと。

組→設備現場からの声である。判断と周知の遅さがその後の業務多忙につながっている。支社として違うと言うならどこかにキャッチボールが上手くいっていない原因があるはずだ。

会→全ての系統がお客さまのために動いている中で決定、電報、手配を行なっている。一方で社員に情報がうまく伝えられなかったことは課題であり、今冬の情報展開に活かしていく。

組→teamsを活用した情報発信と提案で述べられていたが、運用の課題はないか。

会→運用は各現場により違う。

組→支社またぎのプレスで混乱が生じているが課題はないか。

会→指令間協議等で現場に混乱が生じないようにしなければならない。

4. 雪害に伴う計画運休は、降雪及び現場の除雪状況を第一優先に考えて判断すること。

会→現場からの情報が重要であり、現場からの情報の伝え方も写真の撮り方を含めて工夫してもらっている。現場の声を無視している認識にはない。